

和歌山県有田郡有田川町

学生との協働による継続的な棚田保全活動



【地域の基礎データ】

人口：26,082人（令和3年1月末現在）

高齢化率：31.8%（令和2年1月1日現在）

産業：農業（みかん、山椒、花き）、林業 など

【活動の基本情報】

参加学生数：35名（1回生：5名、2回生：11名、3回生：10名、4回生：9名）

活動期間：平成23年7月～

担当教員：大浦由美

1. 活動実施の経緯

有田川町での第19回全国棚田（千枚田）サミット（2013年度）開催決定をきっかけに、2010年に県が企画した「棚田モニターツアー」に当時の観光学部生約20名が参加した。地域の農業者の高齢化とともに耕作放棄地が増加する当地の現状を目の当たりにして、学生側から「棚田保全ボランティア」のアイデアが出されたことをきっかけに、学内で棚田保全ボランティアへの参加者を募り、「棚田ふぁむ」を結成。2011年7月から活動を開始した。



2. 活動の内容

今年度はコロナ禍の影響を受け、現地活動は「稲刈り」と「草刈り・獣害柵見回り」の2回となった。その他の活動は以下の通りである。

- ・ 現地とのオンライン交流会：6月と2月に開催し、親交を深めた。
- ・ 活動報告誌の作成：現地活動の報告の代わりに、新メンバーの紹介や自宅待機中の学生生活の紹介などを行った。
- ・ 沼地区の紹介パンフレットの作成：沼地区からの依頼により、地区の概要や農産品を紹介するためのパンフレットを作成した。

3. 活動を通じて

今年で活動10年目の節目の年であったが、コロナ禍により現地活動の縮小を余儀なくされた。しかし、オンラインミーティングを併用し、互いに「顔の見える関係」を維持することを心がけた。また、県庁・有田川庁役場・沼の農業を守る会と連携し、本活動に即したCOVID19対策マニュアルやチェックリストを作成し、共有した。今後、コロナ禍がしばらく続くとしても、できる限りの対策を講じた上で活動を継続させていきたい。

4. 成果物（ポスター）



棚田ふあむ

棚田ふあむの結成

全国棚田サミット開催に向けて、和歌山県が平成22年に開催した棚田モニターツアーに参加、耕作放棄地が増加する棚田の現状を目の当たりにする。和歌山県と有田川町からの棚田保全活動の提案によって学内で参加者を募り、棚田ふあむ結成。

平成23年度から有田川町沼地区で活動を開始。現在まで10年間活動。当初は棚田の保全を目的に活動していたが、現在は棚田と棚田を保全する地域の人を支える活動をしている。



有田川町沼地区

和歌山県中央部に位置し、「日本の棚田百選」に選定された「あらぎ島」をはじめとして、多くの棚田が点在しています。急傾斜地の棚田が美しく、近年では「ぶどう山根」の栽培も盛んです。ただ、高齢化が進み、沼地区の人口割合はほとんどは高齢の方が占めています。そのため、棚田やぶどう山根もいまはその方たちが栽培可能でも、後継問題や自分たちで栽培ができるかという問題が深刻です。



活動内容



オンライン活動
7月



稲刈り・草刈り
9月



獣害柵点検・芋掘り
12月



オンライン交流会
1月

コロナウイルスの流行により、新メンバーを加えての活動はオンラインでした。週に1度の定期ミーティングなどの活動もオンラインで行いました。今までにない活動形態で初めは戸惑いが多かったです。

今年度初めての対面活動ができました。活動の際にはマスクの着用やソーシャルディスタンス、アルコール消毒など感染防止を徹底し取り組むことができました。マスクをせずに活動していたときの日常がとても幸せだったのだと感じました。

今年度2度目で最後の対面活動でした。コロナ対策バッチリの上で1回生が楽しく芋掘りを体験していました！始にはコロナは関係ないので獣害柵の見回りもしっかり行いました！

今年はオンラインで交流会と幹部交代をしました。学生、地元の方、県庁の方、OB・OGの方々に参加して頂き、約40人集まりました。OB・OGの方々にはビデオメッセージなどを頂き話が盛り上がりしました。

今年度の総評

- ・ 稲刈りは初めての体験でした。慣れてくるとさくさく刈り取ることができて楽しかったです。
- ・ 獣害は地域にとって深刻な課題であるということがわかりました。
- ・ 稲刈りの作業だけでなく、地域の方々とお話して交流することも大切だと思いました。
- ・ 交流することで、学生も勉強になり、地元の方々もやりがいや誇りを感じられると思いました。